

東日本大震災から11日で2年。太田市立南小学校では昨年12月から、1年生を中心に、岩手県陸前高田市の高齢者らと交流を深め、手作りのプレゼントを贈ってきた。5日には励ましの思いを載せた大きな壁飾りを制作。節目の11日までに、現地に届く予定だ。

太田・南小の1年生



被災地の人たちを励ます贈り物を続ける太田市立南小学校の1年生。現地に贈る壁飾りを囲んで

陸前高田のお年寄りと手作り交流続く

明日へ
東日本大震災2年 @群馬

5日。南小の1年生3クラスの約70人が教室で巨大な模造紙を囲んでいた。陸前高田市の仮設住宅に送る壁飾り。縦横とも児童10人が座れるほどだ。そこに、自分たちが書いた「からだを、おだいじに」といった被災者へのメッセージを貼っていた。



壁に飾るための大きな紙に自筆の手紙を貼っていた。いずれも太田市高林東町

児童たちは、陸前高田市の仮設住宅で暮らす高齢者の親睦グループと交流している。昨年の読書週間に

川小学校の父母たちが、児童が避難しようとした高台にヒマワリの種を植えたという絵本が読まれた。すると、児童から「生活の授業で育てたアサガオの種を贈ろう」と声が上がった。

児童は、朝日新聞社など主催の「朝日小中学生復興新聞コンクール」に応募するため、新聞作りに取り組んでいた（低学年の部で優秀賞を受賞）。復興の難しさや、困難に立ち向かう被災者の姿を学んでいた。

1年生の担任、鯨井文代教諭は「小さくても震災に向き合ってほしい」と考え、新聞作りを発案した。種を贈りたいという声は、「一人を思いやる心が育っている」とうれしかった。

そこで、新聞作りで一本松のことを学んだ陸前高田市の社会福祉協議会に問い合わせた。仮設住宅の高齢

節分の鬼のお面や豆。2月には桃の節句を前に300体のひな飾りを贈った。ひな人形作りからは、2年生も加わった。

被災地から届くお礼の手紙や電話には、「私たちが忘れないで」という言葉もあった。節目の日に向けて

背景に、一本松と大漁旗を掲げる漁船を描いた。ある児童はこう手紙に書いた。「おじいちゃん、おばあちゃん、つらいね。でも、だいじょうぶです。もうすぐ、はるがきます」

5日には陸前高田市でも、交流するグループの約

書いた。メンバーの一人が仮設住宅に住む菅野和子さん(65)は、ひらがなで「いつもどうもありがとう」と書いたという。「これから少しずつ交流していこうね、という思いをこめました。交流が楽しみでなりません」

(木村浩之)